

2003年カンボジア議会選挙監視報告書

山田浩史（横浜国立大学国際社会科学博士課程前期）

概要

2003年7月27日に行われたカンボジア議会選挙に際し、私は InterBand を通じて選挙監視に参加した。今回の選挙は、1993年の UNTAC による制憲議会選挙、1998年の総選挙に次ぎ国政レベルで3度目となるもので、内戦からの復興と政情安定を伺うものといえる。選挙は全国24選挙区の比例代表制で行われる。

私は ANFREL チームに配属になり、Stung Treng 州を担当した。ラオスとの国境に面するこの州には、5地区34コミュニティ128村に、人口88千人が暮らし、主に農業と漁業を営む田舎である。州に割り当てられた1つの議席を巡って3大政党がキャンペーンを行っていた。私は、パートナーのフィリピン人 Noel、通訳の Roth との3人で、メコン河沿岸の

2 地区 (Thala Borivat, Siem Bouk) 11 コミューンおよび

Stung Treng 州の政治的機関を視察した。移動手段はもっぱ

らスピードボードと 3 人乗りしたバイクである。以下、

ANFREL Stung Treng チームの活動をまとめる。

選挙キャンペーン期間および投票前日

監視活動の 2 日目に、州選挙管理委員会 (PEC) にて毎週行われる 3 大政党、州知事、警察、軍、NGO の会議に出席できたのは、この州においてどんな問題が争点となっているのかを理解する上で大変貴重だった。なぜなら後にも先にも訪れる PEC、11 のコミュニティ選挙管理委員会 (CEC) あるいは現地 NGO である CONFREL においても、回答は決まりきって同じであったからだ。すなわち、「問題はない。状況は以前よりよくなっている。犯罪事件もあったが政治的なものではない。3 つの政党は協力して話し合いを持ち、NEC のルールに従っている。」と、まるで想定問答マニュアルの暗記テストを行っているかのようであった。会議の中で、村民の ID カードを村長が回収した事件 については、後の個別

インタビューにおいて **CPP**、**SRP**、**FUN** や州知事、警察など関係者のそれぞれ異なる視点から捉えることができ、客観性を高める上で役立った。

政党のキャンペーンは、**CPP** が規模、回数ともに他を圧倒しており、お揃いの帽子にポロシャツ姿で車やバイクを連ねてパレードする様子は、日本の選挙風景とは異なり派手である。また、**SRP** は党のマークであるソウロクを燈して夕暮れの街を行進した。

PEC あるいは警察は中立であるとされるが、実際は **CPP** の影響が強いと感じた。例えば、**CPP** 以外の政党支持者は **PEC** や **CEC** のメンバーになれないことを複数の関係者から聞いた。また、インタビューに応じてくれた州警察の副長官 (**first deputy**) はフンセン首相の腕時計をしていた。あるいは **CONFREL** のコミュニケーションリーダーは **CPP** の帽子とポロシャツを着てキャンペーンに参加していた。もっとも、州知事は **FUN** であり **CPP** への懸念を沢山語ってくれたが。

Stung Treng 州で活動する国際監視員は、ANFREL の他に EU 監視団と the Asian Foundation がいた。彼らとのミーティングを開票日まで計 4 回行い、お互いの情報交換と活動地域のオーバーラップを避けるために行われた。この場を仕切っていたのはパートナーの Noel であり、また我々 ANFREL チームの活動量は他を圧倒していたと自負する。また、地元 NGO である CONFREL や Community Information Section の協力がとても有難かった。

投票日、開票日

投票日、快晴な天気恵まれる。雨が降ればメコン河の島に住む住民が河を渡って投票できないと危惧していた地区の CEC チーフも笑顔であった。投票日に巡回する投票所は、前日までに訪れた場所にするのが通常であるが、前日にポスターの貼付けをめぐり CEC と村人とのトラブルがあったことを直接入手したため、急遽その投票所を訪れることとした。予期せぬ訪問なだけに、CEC のチーフが別の投票所から駆けつけるなど慌てさせたようだ。投票所スタッフの不慣

れから開始時および終了時にもたついた。一つ一つの過程でマニュアルに首っ丈であった。また ID のチェックに時間がかかった他、二重投票を防ぐためのインクの量が少ないなどの例が見られた。

投票所には朝から多くの村人が集まり、投票は極めて平和的で秩序正しく行われた。投票所である学校の門のところで大音響のスピーカーで音楽を鳴らしたり、投票所を出たすぐ隣で食べ物を売ったりする投票所もあり、村のイベントであったが、決してお祭りのように浮き立つ雰囲気ではなく概して粛々で行われた。この日巡回した 8 つの投票所における投票率は 80% 以上であった。また、各投票所には 3 政党からの代表者、国内監視員として地元 NGO である CONFREL あるいは NICFEC のメンバーが配置されていた。また、投票所の周りには警察官 2~3 人が警備に当たっていた。

翌日の開票日、4 ヶ所の投票所の投票箱を 1 箇所に集めて開票作業を行った。そこでは 2 つのグループに分かれて同時に開票した。スタッフ、政党代表者、NGO が見守る中で、

1,400 票が 1 つずつ確認された。和気あいあいと、まるで学級委員を決めているかのような雰囲気である。投票所における結果は、CPP が過半数を占め、次いで FUN、SRP だった。また、Stung Treng 州の議席数 1 は CPP が獲得することが夕刻には伝わってきた。

思うこと

プノンペンでは若い人を中心に CPP 政権の腐敗への批判を理由とした SRP への人気が高く、実際の得票率も CPP を上回った。一方で地方では圧倒的に CPP が強かった。その理由として挙げられるのは、第一に、低所得の暮らしの中で大きな資金をバックにした地方の実力者の影響が強いことである。第二に、社会構造を変えるということよりも、まずは生活の保障が優先されるということだ。困った時に頼りにする地方の実力者の側にいた方が何かと便宜があるし日ごろの恩義もある。地方実力者にはなぜ潤沢な資金が集まるのかを問いただし変化を求めていくよりも、余裕のない暮らしの中でいかに安定した生活ができるかが重要な問題なので

はないだろうか。たとえ CPP に批判的であったとしても、
政権担当能力が未知数の SRP に賭けるまでのインセンティブに至っていないといえる。

選挙監視員として投票所を回りながら感じたのは、投票所スタッフ、CEC、現地 NGO を中心に公正な選挙プロセスに向けた意識と取り組みは既にできているということだ。別にこうして国際選挙監視員としての自分がいなくても、十分に自立的に選挙が行われていること実感できた。

さて、選挙結果は中間発表によると 123 議席中、カンボジア人民党 (CPP) 73 議席、フンシンペック党 (FUN) 26 議席、サムランシー党 (SRP) 24 議席となった。しかし、予定の 8 月 8 日を過ぎてもまだ正式な発表は行われていない。また、それぞれの監視団が今回の選挙結果について妥当であるとしているにもかかわらず、FUN と SPR が選挙結果を認めようとしていない。CPP が第一党となる見込みだが、新政府樹立にむけた連立をめぐる混乱が続いている。民主主義とは投票することではない。国民、国内外の監視員がい

くら公正な選挙プロセスを作り上げても、それが民主主義の成熟ではなく、飼った方も負けた方も選挙結果を承認することが何よりも不可欠ではないだろうか。

最後に、今回の選挙監視ミッションを通して貴重な経験を頂いた。InterBand、ANFREL のスタッフ、メンバー、そして合掌の挨拶で迎えて頂いたカンボジア Stung Treng 州の皆さんに感謝したい。

[▲ Page Top](#)